



サーバス九州

日本サーバス九州支部会報 No. 197 2023 年 11 月 1 日 支部長 S. S.

極暑だった今夏が終わり、過ごしやすい季節も過ぎあつという間に過ぎ、秋も深まってきました。夜寒を覚えるこのころ、皆様お風邪など召されていませんか。

この度、10 月に北九州にてサーバス九州秋例会を無事に終えることが出来ました。これも偏に北九州の皆様と会員の皆様のお陰だと思います。少しずつ海外との行き来も増えてきて、海外の方の姿も良く見られるようになりました。また 11 月には台湾での東アジア会議に数名の会員さんが参加されます。今後も皆様のご活躍をお祈りするとともに、より良いサーバス活動にしていこう盛り上げていきましょう。

皆様の協力を得て、サーバス九州支部会報 11 月号が出来上がりました。
次の内容でお届けします。

支部長 S. S.

1. [2023 年度 サーバス九州秋例会を終えて](#)
2. [秋例会 サーバス旅行ミニレポート](#)
3. [ホストおよびトラベラー体験レポート](#)
4. [九州支部現況](#)
5. [支部からの連絡](#)
6. [編集後記](#)



1. 2023 年度 サーバス九州秋例会を終えて

サーバス九州 2023 秋例会北九州市

Y. K. (福岡)

やっと秋の気配の訪れを感じる 10 月 14 日 15 日、小倉城近くの小倉リーセントホテルで秋例会（宿泊者 16 名、懇親会参加者 17 名）が開催されました。

午後 2 時、参加者全員 15 名でホテル近くの八坂神社、小倉城、小倉城庭園を見学。その日は小倉城祭りと重なり、天守閣広場にて大太鼓の披露、野外での寸劇、餅まきが行われ、メンバーの皆さん童心に帰り真剣になって餅拾いを楽しみました。

庭園見学後、鷗外橋（かつて小倉に軍医として在住した森鷗外の名前に由来する）を渡り、昔は泥川と呼ばれた紫川沿いのビル地下にある水環境館へ。今では色々な魚介類が住みカヌーで楽しめる川になったその過程を子供でも学べるように展示されている施設です。以前は公害都市と呼ばれた北九州市ですが現在は環境都市へと変貌しています。

その後かつての長崎街道など 5 街道の起点 常盤橋（木の橋）を渡り 昔は旅籠が立ち並んでいた街道をぶらぶら歩き、ホテルに戻りました。

6 時半、レストランの個室に一同集まり懇親会。今回はいつもの自己紹介後、スイスペンテコスト 2023 とドイツ・スイスサーバス旅行体験記を副会長 T さんから語ってもらいました。（一緒に同行した福岡の S さんの手記も日本サーバス本部会報 8 月号に掲載されています。）突然のフライトキャンセル、空港移動、Wi-Fi・ネット接続が使えないために予定していたホストファミリーにキャンセルの連絡ができないなどハラハラドキドキの連続後、見知らぬ方達から受けた親切、

温かく迎えてくれたホストファミリーなどの話に思わず聞いているメンバー達もドキドキ、ホッの連続でした。

懇親会後は皆さまお待ちかねの二次会、メンバーの一室に集まりワインを飲みながら談笑を楽しみました。

翌日はあいにく早朝から雨でしたが、ホテルを出発する頃は天気も回復、JR で関門海峡を左手に眺めながら門司港駅へ。駅界隈のレトロな建物や跳ね橋を見学後、渡船で関門海峡の海風に



揺られながら対岸本州の山口県下関市唐戸へ。大人気の唐戸魚市場名物活きいき馬関街（土日祝日のみお魚屋さんが新鮮格安握り寿司屋に変身）へ突撃。たくさんの人の波を押しつけて購入した握り寿司を皆さんと一緒に草むらの上に座り、関門橋、関門海峡、対岸門司を眺めながら楽しくいただきました。世界中で起きている辛いニュースが毎日流れる昨今、私たちは平和な国に住んでいるのだと改めて実感しました。

楽しいひと時もアッという間に過ぎ、午後3時頃門司港駅で解散。特に何事もなく無事に例会を終えることが出来ました。色々不手際な点がございましたが参加者の皆様のご協力に感謝です。サーバス九州の支部長、副支部長、会計の皆様からのご助言、ご協力にも感謝です。



秋例会北九州の計画にあたって

- ① 6月に3人でまず北九州のどこに皆様をご案内した
いかを話し合う。

一日目はまず小倉城、庭園、旧街道筋、二日目は門
司港駅、門司港レトロ、下関唐戸市場の活きいき馬
関街の名物寿司など、おおまかなプランを立てる。

- ② 以上のプランからホテルは JR 駅からの利便性、宿泊
費などを考慮して小倉リーセントホテルに決定し6
月に仮予約。

- ③ 3人それぞれが小倉、門司港、下関などシミュレーション。観光にかかる時間、距離などお
おまかに測る。

- ④ LINE オンライン会議で最終プランを決定する。



以上3人のチームワークで今回の例会を開催することができました。

北九州メンバー T, T, Y

秋例会に参加して

O.K.（福岡）

「サーバス九州秋例会が地元小倉で開催とのご案内をいただき、初めて参加させていただきました。緊張しての参加でしたが、皆様が笑顔で積極的に話しかけてくださったおかげで、心地よい豊かな時間を過ごすことができました。

旅行報告では、災い転じて福となるエピソードに勇気をいただき、九州サーバス会員のご友人によるサポートに心が温まりました。配付された写真にも、ホストの方との交流の充実ぶりが滲み出ていました。歓談中には多彩な顔ぶれの皆様から興味深いお話をうかがい、あっという間に時間が経過しました。所用により2次会に参加できず残念です。



本会の運営にご尽力くださった方々、そして日頃より役員として職務を遂行してくださっている皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。皆様のますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

2. 秋例会 サーバス旅行ミニレポート

2023 年ドイツ, スイスサーバス旅行

T. F. (福岡)

序章

コロナ禍の終息が見え始め、人々の往来で国の内外がにぎわい始めた頃、スイスサーバスのイベント”スイスペンテコスト 2023”に参加しませんかとのお誘いを受け、「はい、行きます」の一言で、今回の旅行が決定しました。

ペンテコストは日本人は7名が参加して、その後は友人と2人で動くことになったので、先ず、大体の行程を決め、ホスト探しを始めました。いくつかの都市や町でSOL上の名簿を頼りに手探りでホスト依頼状を1軒ずつ、メールで出しましたが、予定が入っているのと断られたり、返事がこなかったりとかで随分難儀しました。サーバスの先輩から紹介して頂いたりして、ホストが決まり始め、ドイツサーバス会員さんにも手伝っていただいてやっと目指すところのホストが見つかりました。一泊だけユースホステルを入れて、今まで行ったことのないドイツ南西部とスイス北部の町を列車で動く旅です。あとでわかったことですがこの時期は春の休暇の時期だったようで、向こうの会員さんもそれぞれに計画があり忙しかったようです。

次は、何をお土産に持っていこうとか、ホストに日本のものを持っていきたいが希望の品があるかどうか等の問い合わせ、LOIを送ったりしながら、少しずつ旅の形が見えてきました。ただ、私自身は5月の連休明けに風邪を引き、早く治さないと！と焦る日々を過ごしました。

5月末、無事に福岡空港から出発。香港、ロンドン、チューリッヒへと乗りつぎ2回の便です。ロンドンヒースロー到着後、ロンドンシティ空港へ移動してそこからチューリッヒ行きに乗る便の予定でしたが、そのシティ発の便がキャンセルになっていたことをシティ空港で知り、ホテル1泊、ミールクーポン3食分と空港からホテルまでのタクシーバウチャーをもらい、1日余分のロンドン滞在になりました。ロンドンを東の果てから西の果てまで移動するタクシーの車窓から景色を楽しみ、地域によっては、ヴェールを被った女性や有色人種が多いなあと思いながら1日目

を過ごしました。おかげで、せっかく見つけたスイスの1泊目のホスト宅滞在はキャンセルになりました。航空便の「キャンセル」なんて他人事とっていましたが、それが私達に降りかかるなんて夢にも思いませんでした。翌日は友人と2人でヒースローからチューリッヒに飛び、必死でペンテコストの会場に夜遅く暗くなって到着しました。

フライブルク

ペンテコスト後は、スイス国境近くのドイツのフライブルク、環境保全に取り組む都市として有名なところ。大学入学資格試験を控えた息子さんとお父さんの二人暮らしの家庭でした。家の中のいたるところ、そして庭にセンスのいいオブジェや子供たちの作品等が飾られていて、目を楽しませてくれました。庭とテラスには苺の苗やヒマワリの芽が出ている鉢々があり、地面にはサクランボやバラの木などが植わっています。巣箱もあって、丁寧な暮らしぶりがうかがえました。そのテラスで、ベジタリアンの夕食とワイン、デザートをおいしくいただきました。ドイツの電力事情等興味深い話になり、ロシアから液化天然ガスの輸入がストップになり、急速に再生エネルギーへの転換が進み、今や電気料金が前より下がりつつあるとのこと。ドイツの原子力発電はもうすべてストップしていると自慢げに話してくれました。翌日息子さんが市内を案内してくれた時に、家の近所に小さな水力発電装置を見つけて、彼らの工夫と実行力に驚きました。旧市街には、第二次世界大戦で空爆で壊され、復元された建物等のある旧市街の説明を聞きました。日本と同じくドイツはいろんな場所が連合軍の爆撃でやられたようです。18歳の彼の英語はよどみなく素晴らしいものでした。学校の授業だけで学んだとか。先生はモロッコ人だそうです。驚くと何人が教えてもいいでしょうと、私の固定観念をつつかれました。2日目は私達でお寿司等を作りました。

カールスルーエ

鉄道移動して、カールスルーエという都市到着です。憲法裁判所があるところで、制度は違うけれども日本にもそういう裁判所は必要なのではと思いました。ペンテコストで一緒だったホストは、エンジニアの職を早期退職して、両親の介護を終えると、カールスルーエのガイドをしたり、各地のサーバスのイベントに参加したりと、エネルギーに満ちた女性でした。今は歴史がテーマの博士論文執筆中で、いろんな話をするなかですごい人だなとひたすら感心しました。町を一望し、遠くにライン川が流れている広大な平野を見下ろす丘、カールスルーエ城（ベルサイユ宮殿を手本にして作られた）、カーシェアリングしている車で1時間半くらいのところにあるベルヴァートスタイン城の見学、美味しいという評判のアイスクリームの店（ドイツでも指折り）でたっぷりの試食（移民の店主が努力工夫して作り上げたお店だそうです）等を案内してくれました。またマーケットやアジア食品の店でお寿司の材料を仕入れたり、カトリックの大聖堂を見物したり、2日間目いっぱい動き、朝昼晩とテラスで食事を楽しみました。テラスから見た景色、黒ツグミの美しい鳴き声、夕方の空、何もかも印象的でした。家の中には様々な物語の詰まった彼女や友人の作品、オブジェが飾られていて、青春時代から今までの活動範囲の広さが想像できました。フライブルクからカールスルーエ、カールスルーエからヘッピンゲン、チュービンゲンからフラウエンフェルトまでの移動のチケットの手配、荷造りの手助けもしてくれました。様々なシーンでこの人は本当に人が好きなのだなと思いました。電気代の事を聞くと、ここではどん

どん上がっているとの事でした。またどこかのサーバスイベントで彼女に会えたらいいなと思いました。本当に魅力あふれた人でした。

ヘッヒンゲン

次に向かったのは、ヘッヒンゲンでしたが、途中の駅で列車が立ち往生、ドイツ語の車内放送は分からず、人に聞いて別の列車に乗り換え1時間半ほど遅れて到着しました。ホストが駅に迎えに来てくれていてほっとしました。築450年の木枠組みの大きな家は37年前に購入して夫婦で手を入れたり業者をお願いしたりして、快適な住まいになっていました。庭は広く、よく手入れされた木々、花々、野菜畑がありました。家の一部には合気道の道場もあり、庭には手作り子どもたちのための2階建ての小屋もありました。少し休憩して、プロイセン伯のお城見学に行きました。帰って夫婦で協力して作ってくれた郷土食の夕食とワインを堪能しました。夕食後は町の中心の夏祭りの会場に行きましたが、人々はワインを飲んだりおしゃべりを楽しんだりしていました。次に、プロイセン伯の別荘や修道院の跡を見学、そのすぐそばの友人宅訪問、2軒とも庭で立ち話をしました。夜10時ごろまで明るいので、どこのホスト宅でも長い夕べを楽しく過ごしました。電気代は再生可能エネルギーへの転換でだんだん下がりつつあるとのことでした。この町は、ごみ一つ落ちていないきれいなところでした。夫は中国やアメリカで仕事をしたこともあり、妻は6歳上の夫と出来るだけ一緒にいたいからと早めに引退して、今は夫婦仲良く豊かな時間を過ごしていたのが印象的でした。



チュービンゲン

次に向かったのはチュービンゲン。ユースホステルに1泊しました。ここでは友人と二人、日本語だけで過ごせてリラックスしました。そのユースホステルは大きな建物で、ヒトラージュメントの施設だったという表示があり、そういう場所をホテルとして利用していることに少々驚きを感じました。町にはネッカー川が流れ、ボート、釣りや散歩など人々はそれぞれに楽しんでいます。町並みも美しく、レストラン、カフェで食事、歩行者天国の旧市街でウインドウショッピング等を楽しみました。ホステルのフロント係と手ごろな価格のアクセサリー店で日本語の話せるドイツ人スタッフとの会話も楽しめました。美しい町でした。

フラウエンフェルト

チュービンゲンから列車やバスでシンゲンへ、そこからは列車に乗りコンスタンツで乗り換え最後の目的地フラウエンフェルトに向かいました。どの路線も景色が素晴らしく、緑が美しかったです。フラウエンフェルトのホストと前もってホスト依頼やその後の連絡で、途中の見どころ(雪をかぶった山々、コンスタンツ湖等)も教えてもらっていました。ホスト夫妻は、依頼した時期はハイキング中、途中の諸連絡の時はドイツ東部をサイクリング中で、文面から人間



的にも体力的にもすごくスケールの大きい人たちだと推測していました。駅に到着すると、2人の女性が待っていました。なんと、ビューラハの最初に泊まる予定だったホストの女性が来てくれていて感激しました。まず、スタイリッシュなマンションのお宅で、手作りの季節のケーキを楽しみ、その土地の名物料理の夕食、パンも手作りで、どれも見た目も味も素晴らしいものでした。土地のワインで乾杯しました。会食後は、皆で町を散策。夏の間中、建物の壁や通りの階段、橋げた等に市の企画でプロからアマのアーティストたちの壁画がたくさんありとてもいい雰囲気です。街角やお店では人々が飲み物片手におしゃべりを楽しんでいます。小川のほとりには草花が美しく咲いていて、植生保護のために勝手に抜いたり切ったりすることはできないということです。10年20年先のことを見定める自然保護の施策なのだと納得しました。こんな町に住める市民は幸せだなとつくづく思いました。翌日は、近郊のワイン畑沿いの道を散策しました。ところどころに彫刻が置いてあって、目を楽しませてくれました。スイスらしい景色はここも最高でした。友達の女性と合流し会話を楽しみました。途中でバイクに乗って湖に泳ぎに来たという人とベンチで一緒になって、この人とも会話が弾みました。列車でも、駅でもどこでもスイスの人びとは知り合いでもそうでなくても会話が始まるとずっと続きます。あっという間に2泊して、翌朝チューリッヒ空港まで列車で一緒だったホストともお別れです。名残惜しい気持ちでいっぱいでした。



終わりに

今回のサーバス旅行は、最初2週間は長いなと思っていたけれど、あっという間に時が過ぎ、感動と触れ合いに満ちた滞在でした。彼らの心豊かな生活や社交生活が心に残りました。どのホストも、私達が送ったLOIをきちんと読んで、希望をかなえてくれました。トラベラー受け入れのアドバイスも、誠意のこもったおもてなしも心に刻んで帰国しました。生活のヒント、人との付き合い方、様々な学びがありました。

また、いつか体調を整えて、サーバスの旅に行きたいものだとは切に思っています。

3. ホストおよびトラベラー体験レポート

9月17日に大阪からフェリーで別府入りし、熊本、屋久島、鹿児島、雲仙、長崎、佐世保、佐賀、そして福岡と、九州内を一人で駆け巡ったオーストラリアからのトラベラー、Eさんからのレポートです。この3週間の間に3名のデイホストと、3名のホストとの出会いがあり、「九州探検サーバス旅行があまりにも素晴らしく、書いていて筆が止まらず、つい長い文章になってしまった」というコメントをいただきました。とても活動的で、明るいEさんで、一人旅を楽しむ勇気も一緒にいただきました。

今回も、会員同士で連絡を取り合いながら、サーバス九州ホストのバトンリレーができましたことを嬉しく思います。

MY KYUSHU ADVENTURE FROM DOWN UNDER TO ISLAND WONDER

E.K. (Australia)

My name is E.K. and I live in Victoria, Australia. I have been a SERVAS host and traveller since 1988.

I recently travelled to Kyushu where Kyushu SERVAS members opened their hearts and their homes to me.

My trip began in Osaka with a ferry trip through the Inland Sea delivering me to Beppu in the early morning. The steam rising above the city was inviting as I was very keen to experience the magic of onsen. Leaving Bepu I travelled to Kumamoto Prefecture where I met T.S. my SERVAS host, and her extended family.

T introduced me to several key Japanese crafts- including Japanese sweet making, paper making and soba making! We visited Mt Aso where I walked to the edge of a live volcano! T and I shared a love of gardening and the view from her home of late summer rice fields was stunning. She also introduced me to a new 'love' as the national Sumo tournament became my must-do night time television viewing during its final week.



Leaving Kumamoto, I travelled to Yakushima Island and witnessed the beauty and history of the ancient forest. A hot and humid stop in Kagoshima, a magical train trip to Ibusuki and its famous hot sands was followed by a quick trip to Unzen. The next day I met my SERVAS day host, A.A. in Nagasaki city. A impressed me with her commitment to

showcase this wonderful city to many travellers and her gracious manner.

Heading north, my next stop was Sasebo staying with SERVAS host, M.M. My visit happened at the same time as full moon and I was initiated into the joyful Japanese tradition of moon viewing, along with drinking sake and beer, eating delicious snacks and singing campfire songs. My two days with M's family also included scarecrows, pirate ships and peacocks. Quite an adventure, lots of laughter and unforgettable!



My host in Saga Prefecture, S.S. took me to see another of Kyushu's treasures- Karatsu Castle. Perfect weather and a perfect day. Meeting S felt like meeting an 'old friend' where conversation flows comfortably.



My last stop was Fukuoka where two lovely SERVAS day hosts, Y.Y. and

M.S. in providing a slower pace of visiting sights gave me a sense of peace and balance. We happened upon a local school sumo competition which was such a treat. We shared a lovely lunch on the lake front. I also visited Dazaifu and its fabulous gardens- one of the best I've seen over my 4 visits to Japan!



I'll never forget my last night on Kyushu as I joined a tour to Huis Ten Bosh to view the biggest fireworks display in western Japan! There were thousands of people celebrating the end of summer but the next day on the plane, I was still celebrating one of the warmest and pleasurable SERVAS experiences ever.

I hope to one day to return this experience to all Kyushu SERVAS travellers. You are all welcome in my home.

Thank you again Kyushu and Japan.

4. 九州支部現況

〈2023 年 10 月末日現在の会員数〉 38 名（家族）

福岡県	： 14 名	佐賀県	： 2 名	長崎県	： 7 名	大分県	： 8 名
熊本県	： 3 名	宮崎県	： 3 名	鹿児島県	： 1 名		

5. 支部からの連絡

○九州県単位交流会の活動補助費について

熊本県、福岡県、大分県から交流会実施の報告を受けています。会員一人当たり 1,000 円の補助となっています。まだ実施されていないところも、まだ間に合います。せっかくの機会ですので、連絡担当者の方にはお手数おかけしますが、是非計画・実施をお願いします。

(熊本連絡担当者からの報告)

熊本県交流会が出来ました。Sさんの30年前にオーストリアでのサーバステイの話は感激でした。当時の新聞でサーバスのことを知って、大分のYさんに連絡取ったいきさつ等。とても有意義な親睦会でした。

サーバスの体験談は 人生のスパイスですね。予定していた時間よりオーバーで盛り上がり。今回のことで思ったのですが、たかが千円ですが、集まるきっかけになると思います。ただ交流会しましょうと誘っても、それぞれに用事があったりと。しかしきっかけが大事ななあ〜と。今回の感想です。

○年会費納入について

日本サーバスの内規に「該当年の 1 月 31 日を納入期限とする」とあります。来年度 2024 年会費については、秋例会参加者からは、既に全員納入いただきました。2024 年会費は、1 月 31 日までに納入をお願いします。残念なことに、今年度 **2023 年会費が未納の会員** もおられます。早急に振込をお願いします（可能なら 2024 年会費と合わせて）。

○トラベラー受け入れ報告を確実に支部長までする。

サーバス旅行をしたとき、そしてトラベラーを受け入れた時は、支部長まで報告することになっています。日本サーバスの Web ページ⇒「トラベラー受け入れ報告」から入力報告すると、その内容メールは自動的に自分のもとに届き、自分の記録にもなります。その時は支部長への報告も不要となります。忘れないうちにその都度報告をしてください。

([Contact us \(servas-japan.org\)](https://servas-japan.org))

サーバス九州では、この報告の仕方を推奨します！

Ctrl キーを押しながら、ここをクリックしてみてください。報告ページに直接いくことができます。

6. 編集後記

旅行業界などで、inbound インバウンドという言葉をよく耳にするようになりました。訪日外国人旅行？ 思わず辞書を引いて調べたところですよ。サーバス活動も活発になり、個人的にもホストをする機会が増えて、楽しく、そしてあわただしくしている所です。

先日の北九州秋例会でも、初めてお会いする会員の参加もあり、毎度のことですが、担当地区会員のお陰で、充実した例会となりました。さっそく来年度の秋例会は大分県で…、という声が上がっています。4 月の支部総会も、せっかくなら泊りがけで計画を…など、楽しい話題に花が咲きました。ここがサーバス九州のいい所でしょうね？！ 例会参加者も、固定化されつつありますので、あらためて、一人でも多く、活動の輪が広がることを願っています。

M.M.